

1歳で～す

毎月1番最初に
生まれた赤ちゃん

や の こ こ あ

矢野心愛ちゃん

平成20年3月2日生



父 智一 さん
母 恵 さん

二渡公民会

両親から一言
優しくて、元気に
育ってくださいね。

三み富と蔵く三み新し内う田た新い仁に永なが岡か市い初は有り宮崎玉山や東ひ原は
角み吉し内ち浦ら田ん村む野の留め科な山ま村ら来き田た村ら脇き本と利り中なが田だ
倅こ庵あこゆ 昊こ晃こ千ち龍り歩あ永と鈴す健し渉あ心み ゆ主か健け美み祥よ菩う拓く
央う司じぎ 空あ太た穂ほ生い夢む遠わ彩さ朗う紋ん音ん 織り吾こ穂ほ輝き花か海み
女 男 女 男 男 女 男 男 男 女 男 男 女 女 女 男 女 男 女 男 女 男 男 女 男 男
大 大 慎 一 雄 太 直 也 誠 武 裕 幸 辰 健 幸 武 竜 道 洋 秀 和
輔 輔 郎 雄 太 直 也 誠 文 也 司 徳 一 夫 史 紀 太 樹 樹
上 東 東 新 上 東 古 上 船 東 時 上 京 屋 湯 天 上 尾
向 谷 町 訪 町 向 町 野 向 木 谷 言 寺 塚 地 湯 天 上 尾
中 谷 下 下 町 町 町 町 下 下 中 原 場 原 神 下 原

内堀中酒假宮玉吉平原大上長高甫上岸小内塩南前木川落
堀間屋之利田美平之濱祖立本坊良坂坂向園野場野野
ス美ト原繁美佐秋恒辰弘和守ニ燭千利初治得勝季
ミ代子ノ之都夫雄久志生ネ實美美郎敦壽雄

85 62 89 69 88 61 81 53 91 73 92 71 72 59 99 77 95 85 86 52 74 67 77 61 82

布時下境愛駒須轟山二上川湯ささ北さ大上北東
田吉中尾平川向ケケ段杭願崎寺下渡町園中塚田園川平方く薄向方谷
城 下 川 田 中 容 杭 寺 町 町 園 原 下 町 中 町 下 町 町 町 町 町

田川久島トシ子
本村エミ
橋之口ノブエ
砂子田徳
手塚友次
杉元兼弘
金田尊義
榊野セイ
宮持キク
堀和春
米満稔
福岡肇
川津ミツエ
松下春江
久保田千里
中村カスエ
得永孝志
永山ツナ
外園清俊
二階堂清
福山ノブ
岩崎スミ子

81 86 86 78 95 87 93 72 79 97 87 93 57 85 83 77 73 85 95 85 97 87 68

鶴田大角
轟原
弓之尾
紫尾上
紫尾下
上仲町
下平川
豆漬
湯之元
上狩宿
久富木町
求名町
須杭
あながわ
湯田原
湯田上
上中福良
時吉新町
高嶺
紫尾上
東橋
広橋
紫尾下

※「誕生おめでとう」は、
厘分圓をただけ掛けています。

町社会福祉協議会へ
篤志寄付

・紫尾区大衆浴場 上之原純夫

誕生おめでとう

1月16日～2月15日届出分(48人) 敬称略

おくやみ申し上げます



鍋田竹材店 伝統竹工芸家

な べ た た か よ し

鍋田高義さん 83歳

店を設立しました。鍋田竹材店では、主に華道の流派から注文を受けて生産しています。

原竹は、山から掘り出してきた竹を油抜きして、天日で1ヶ月ほど自然乾燥。その後、のりと小刀で粗削りに入ります。水洗い、塗りなどの様々な工程を経て、2ヶ月ほどかけて、ひとつの花器を作ります。その作業は全て手作業です。

竹材形質に合った油抜きや乾燥法、自ら考案した専用の工具などは、その道の業界で広く利用され、鍋田さんは、業界の第一人者と言われるほどです。

鍋田さんは「竹は繊維が真つ



直ぐに走っています。少しでも油断すると小刀の刃が逆目に食い込んでしまします。竹を人間に例えるなら、心が真つ直ぐな人ですかね。竹と心をひとつにした時、なめらかに刃が入り、良い竹製花器に仕上がります」と話されました。

「自然に学び、自然を生かす」が座右の銘という鍋田さんの手掛ける竹製花器は、生けられた花々と共に、まるで呼吸をしているかのように見えました。

孟宗竹と呼吸を交わす

ひと仕事

さつまに生きる

孟宗竹の根の自然な曲がりを活かした「置き舟」や「五重生け」、「鶴首」といった20種類以上の個性的なデザインの竹製花器が並ぶ鍋田竹材店。ここでは、鍋田高義さんが、孟宗竹の真つ直ぐに走る繊維にそつて、のりと小刀の刃を入れ、生け花用の竹製花器を手掛けています。

竹製花器作り一筋63年。鍋田さんは、昭和21年、荒木竹材工藝株式会社に入社。鹿児島県特産の孟宗竹製の花器加工技術を習得して、昭和27年に鍋田竹材

DATA

鍋田竹材店

さつま町柏原2832番地1

☎0996(53)0765

至 伊佐市大口方面

R267 ■パーラーインパルス

■鍋田竹材店

■薩摩郡医師会病院

至 宮之城市街地

このコーナーでは、さつま町で働く人々の姿を紹介します。自薦・他薦は問いません。多くの人材をご紹介します。

こんにちは、保健師です

健康さつま21シリーズ⑩生活習慣病

がん検診を受けましょう。精密検査は受けましたか？

◎生涯を通じて男性の2人に1人、女性の3人に1人はがんにかかると言われる。

年に一度定期的ながん検診を受けることで、もし、がんが発見されても、早期がんが多く、早期に治療することで生存率が高くなります。

◎平成19年度各種がん検診の精密検査未受診者は、大腸がん検診44人、胃がん検診27人。男性の未受診者の割合が多い。

平成19年度、町が実施したがん検診で13人にがんが見つかっています。

精密検査の未受診の理由としては、「去年も精密を受けたので今年は受けない」「精密検査が面倒、苦痛」と言ったような声も聞かれますが、検診では細かい状況まで判別できないため、毎年、精密になる方でも前回とは別の病気の可能性もあります。

精密検査まで受けないと、せっかく検診を受けていただいても、疾病の早期発見にはつながりにくくなります。できるだけ早めに精密検査を受けましょう。

◎40代～50代の働き盛りの方の受診率が低い。

がんは中年層にも多く発生しており、若いほど進行も早くなります。特に会社などでも受ける機会のない主婦の方、自営業の方は、年に一度は検診を受けて自分の健康は自分で守るように心がけましょう。